

枯山へわが大声の行つたきり

藤田湘子

湘子は飯島晴子の死後たった五年でこの世を去った。

湘子には枯山の句がいくつかある。代表句の一つ「枯山に鳥突きあたる夢の後」は壮年の句。兄事していた波郷の死の後に発表されている。掲句は晴子の死後三年、父の死の年の作である。

晴子の死後、湘子はカルチャー教室の講師を辞任し、全国を回り指導句会を精力的に行っていたが、体調を崩しつつある日々の中で、「理想的な同人であった」晴子を喪失した痛みがボディブローのようにじわじわときいてきたのではないかと思う。遺句集『てんてん』には「枯山はゆつくり来よと坐りをり」「枯山の銜となれば寧からむ」など、諦念にも似た心の動きが見て取れる。

2003年 (his作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京